

令和3年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立鹿又小学校

教諭 松川 幸浩

1 はじめに

石巻市立鹿又小学校は、県内第1号校として、創立148年を迎える歴史がある小学校である。なぜ、1号校になれたのかというと、鹿又地域の方の尽力や献金、地域の発展には教育が欠かせないという考えがあったからこそ、学校が早くして創設されたとのことである。

鹿又地域の方々は、肥沃な土地があり、雄大な水資源北上川が流れているからこそ、「農作」で地域を発展させてきた。そこには、年貢（税）という土地の使用料や運営資源として「米」を藩に納めていた歴史がある。児童はこのことについては知らない。それで今回、総合的な学習の時間を中心にして、地域の方々は農作によって豊かになり、そして税として「米」を納めていたということを児童が知っていけるような学習を設定したい。つまり、児童が地域と税との関わりについて学べるようにしていく。



石巻市立鹿又小学校



鹿又地域の田んぼ



鹿又地域を流れる北上川

2 児童の実態（男子26名 女子13名 計39名）

本学級の児童は、最高学年となり下学年児童の面倒を積極的に見たり、給食の準備や清掃を自分から進んで行ったりできるようになり、責任感が高まってきた。学習では、学習課題を意欲的に真剣に行い、なぜ、どうしてと思ったことを積極的に調べる、学習意欲の高い児童である。

また、税に関する事前調査を行ったところ、全員が消費税のことは知っている。しかし、何に使われているか、税金にはどんな種類があるかについて分からないと答えた児童が9割であった。つまり、税に対する基礎的・基本的な知識が乏しい。したがって今回、石巻税務署、石巻法人会の方々のご協力を得て「租税教室」を開催し、その教室を通して税に関する基礎的・基本的な知識と理解の定着ができるようにしていく。「租税教室」は、社会科の学習として位置付ける。



3 指導にあたって

指導にあたっては、前述を踏まえ、次の2つの手だてを講じていく。

(1) 地域と税との関わり

総合的な学習の時間の一環として、地域の郷土史家女川清一さんを招聘し、地域の方々は農作によって豊かになり、そして税として「米」を納めていたということを詳しくお話いただけるようにする。また、鹿又小学校創立には、鹿又地域の方々の努力があったからということもお話いただき、鹿又地域の先人はとても努力家であったということに気付かせたい。

(2) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

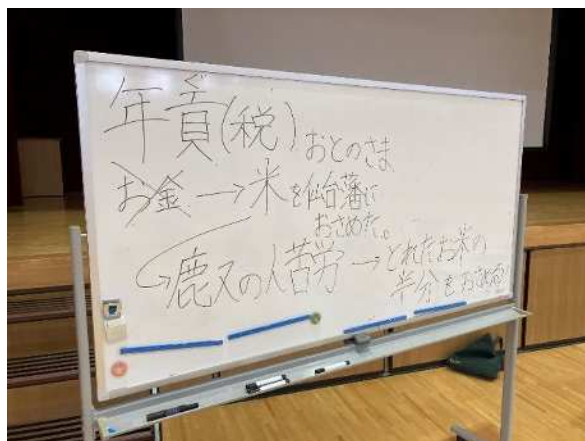
社会科の学習の一環として、石巻税務署、石巻法人会の方々のご協力を得て、講師を招聘して租税教室を実施する。その中で、税金とは何か、消費税以外にどんな税の種類があるか、税金は何に使われているかなどについて具体的なお話をいただけるようにする。また、児童は歴史について興味・関心が高いので、「税の歴史」についてもお話いただけるようにする。

4 実践

3 (1) ～ (2) の手だてを講じたことによって、以下の効果や変容があった。

(1) 地域と税との関わり

7月9日(金)に地域の郷土史家女川清一さんから鹿又の歴史についてお話いただいた。鹿又は河俣→河股→鹿股→鹿又と変遷してきたこと。鹿又小が県内一号校になったのは、地域に住んでいた方々の援助や尽力があったからなどの話をいただいた。そして、地域と税との関連として、とれたお米の約半分もを年貢として伊達藩に納めていたことを詳しくお話しいただいた。この土地は仙台藩の領土だから使用料として支払う必要があること、仙台藩が活動するための資源であるからということも説明いただいた。児童から、「昔は50%もお米を納めていたのは大変なことだけど、仙台藩のために力を尽くす鹿又はすごい。」という感想がたくさん出てきた。鹿又地域への関心が高まった良い学習となった。



(2) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

6月24日(木)に租税教室が開かれた。石巻法人会から齋藤祐司さん(株式会社齋武商店代表取締役社長)と石巻法人会の阿部さんが来校し、お話いただいた。税金は医療や災害救助、治安維持などに使われていること、消費税や所得税などの税の種類についてもお話いただいた。

また、今回税金の歴史についてもお話いただき、飛鳥時代から、特産物や食べ物を国に納めるということも知ることができた。

感想から、「税金はなくなるとみんなが困るから払っていきたい。」「みんなで助け合うという日本人の歴史がよく分かった。」など、納税への参画意識が高まり、助け合いの精神に気付くことができた。将来に役立つ大変貴重な学習となった。



5 成果と課題

- 鹿又地域の納税の歴史がよく分かり、地域の先人の努力に気付くことができた。
- 税金がどのように使われているか、どんな種類の税金があるかがよく分かった。
- 資料1**の通り、税は世の中を成り立たせるため、安心して暮らすために必要という意識が芽生え、児童の税への興味関心と納税に参画する意識が高まった。
- 資料2**の通り、税に関する絵はがきコンクールに意欲的に取り組んでいた。
- 児童でも納めることがあるのは消費税であるが、スーパーやコンビニが遠く、大多数が自分でお金を出して買い物をしたことがないので、納税の実感が乏しい。今後予定されている修学旅行のお土産の買い物を通して、自分が納めた消費税額を算出して、納税を実感させていきたい。

資料1 児童の感想（抜粋）

5 感想

税金が暮らしなどで必要なことが分かったし、税金がないと世界が成り立っていないんだなと思いました。

税金について興味がわいてきました。

松川

5 感想

税金は最初からお金なのではなく、食べ物から作られたことにはじめて知りました。税金はみんなが納める物で、100円や10円の税がつくことを知りました。安心してくらしていくには、税金をしっかりと払うと、大切につかうということが大切だと思いました。

松川

5 感想

税金がなくなったらどうなるのかというアニメで、なくなれば、生活が苦しくなることがわかり、1億円の重さを体験させてくれたり、税金がどこから作られたのか分かり、昔は、税金が米ということもわかりました。

税金の大切さがよくわかりました。

松川

資料2 税に関する絵はがきコンクール（抜粋）

